

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容①】Google Workspaceの授業活用に向けた体系表の作成・活用と実践的職員研修の実施

本校では、Windows端末でのGoogle Workspaceの活用を進めている。授業での活用を進めるためには、一部のICTに卓越した教職員の取組ではなく、全教職員の取組となるような手立てが必要と考え、教職員の目線あわせとスキルアップに重点を置いた。

## ①「ICT活用能力体系表」の活用

各学年部から担当者を選びプロジェクトチームとし、目標と事業計画を設定し共有した。

1～9年生が在籍する義務教育学校であり、発達段階も幅広いことから、各ブロックや学年でどのような力をつけていくのか、また、それに向けた重点的な取り組みを設定した体系表を作成し、それを意識して取り組んだ。実践しながら加筆・修正し、取組を可視化することで活用の見通しを持つことができた。

「ICT活用能力体系表」

## 前期ブロック(1～4年生)

## 【育みたい姿】

- 目的をもって写真を撮ったり、撮影した写真の中から伝えたい内容のものを選び、クラスで発表したりできるようになる。
- 調べたい内容をキーボード入力して検索し、集めた情報を比べ、自分なりの言葉でまとめて記録することができる。

## 【重点的な取り組み】

- 低学年は写真撮影と撮影した写真の活用を中心に行う。中学年は発表ノートやシンプルプレゼンの作成を通じて、情報の取捨選択や整理を行っていく。

## 中期ブロック(5～7年生)

## 【育みたい姿】

- 複数の情報を項目ごとに分けたり、関連付けたりすることができるようになる。
- まとめることによって分かったことを伝えて、聞き手から納得を引き出すことができるようになる。

## 【重点的な取り組み】

- Googleを活用し、クラスルーム、Googleミート、Googleジャムボード、Googleスライドなどの機能を使い、児童生徒の主体的な学習を広げていく。

## 後期ブロック(8・9年生)

## 【育みたい姿】

- 多様な手段で情報を集めたり、情報の種類によってまとめ方を工夫できるようになる。
- 新しい考えや価値を創り出し、それを提案できるようになる。

## 【重点的な取り組み】

- クラスルーム、Googleミート、Googleジャムボード、Googleスライドなどの機能を使いこなし、生徒が選択したり判断したりする機会を広げていく。
- 総合的な学習の時間だけでなく、他教科や児童生徒会での活用場面を増やしていく。
- ジャムボードを使った協調学習や、スプレッドシートを使った他者参照など、ICTを活用した協働的な学びを増やしていく。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容①】Google Workspaceの授業活用に向けた体系表の作成・活用と実践的職員研修の実施

### ②児童生徒の学習過程を意識した教職員研修

Googleクラスルームやジャムボード、スプレッドシート等を活用した授業を教員相互で見学したり、演習を中心とした教職員研修を実施した。研修に際してはICT活用に向けた自身の課題を最初に設定し、講義を聞きながら、解決策のヒントをジャムボードに書き出していきなど、授業での活用シーンを意識した実践的な研修を実施し、結果的に授業観の変革にも繋がった。

#### 児童生徒の学習過程

課題設定  
(パフォーマンス課題)

課題の追求

課題解決に必要な情報  
教科書、資料、友だちの  
考え **(他者参照)**、  
教師の説明

ICTを活用する  
ことでリアルタイム  
で共有できる

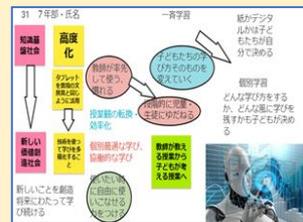
学習過程の振り返り

#### 児童生徒の学習過程を意識した教職員研修

課題設定  
(ICT活用に向けた自身の課題を教職員研修前に設定)

課題の追求

課題解決に必要な情報  
講義、インターネット、同僚の  
考え **(他者参照)**



# リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容①】 生活科や総合的な学習の時間を中心とした、ICT活用プロジェクトの全学年(1～9年生)での実施

「ICT活用プロジェクト」と題し、生活科や総合的な学習の時間を中心に、「気づく」「調べる」「考える」「まとめる」「伝える」といった探究的な学習の中で、ICT活用を進めていった。

ICT活用の推進には、「教える」から「自ら学ぶ」といった授業観・学習観の変革を伴っていく必要がある。その中核となる生活科や総合的な学習の時間の充実がICT活用の推進にも寄与すると考えた。

総合的な学習の時間におけるICT活用を計画するとともに、それに向けて他教科でもどのような活用ができるのかを教科横断的に計画し、「ICT活用プロジェクト」として全学年で実施した。

生活科や総合的な学習の時間は、学年部の教員で相談・連携して取り組むことが多いため、教員間のICT活用に係る知識・ノウハウ格差解消の一助にも寄与した。

### ICT活用プロジェクト企画書 3年部

1. 重点教科：総合的な学習の時間		
(1)単元名 再発見！玉湯のじまんを見つけよう！調べよう！伝えよう！		
(2)ねらい ○地域で身近な人が活動する姿に関心をもち、やってみたいことを見つけられる。友達と協力して活動し、学んだことをつなげて考え、表現することができる。  ○ICTの活用について 自分が深く調べたいテーマについて、タブレットの学習支援ソフトを使ってまとめて発表する。		
(3)単元計画		
時期	学習の流れ	
4月 5月 6月 7月 5～7月	・オリエンテーション ・町探検南コース ・町探検北コース ・観光協会・まちデコ代表の角さんの講話 ・町探検や角さんのお話から発見した玉湯のじまん(すごいところ・すてきなところ)をカードや新聞にまとめ、互いに交流する。	
9月	・観音寺、玉作資料館への見学や、まが玉づくりの体験などをしつつ、自分の課題を見つけ、調べ学習を始める。 ①思考ツールを使って課題を決める。 ②情報を集める(これまでの資料・インターネット・インタビュー) ③選んだ課題別にグループを作り、情報交換・相談をしながら進める ④情報を取捨選択しながら、プレゼンの計画を立てる ⑤まとめたことをシンプルプレゼンでまとめる。 ⑥学校・学年の中でプレゼン発表をして改善する。 見る側の視点(魅力をどう伝えるか・相手に分かりやすいか)	
11月～1月		
2月	・シンプルプレゼンを使って、発表する。	
2. ICTの活用計画 (各教科でこんなことをやってみようかな・・・)		
教科	活用場面	(実施できたら)実施した月
国語	ローマ字入力・タイピング	7月～
算数	教員用タブレットで児童の考え(ノート等)を撮影して電子黒板で大きく映し出しながら説明する。	通年
社会	松江市の資料をみて気づいたことを発表ノートに書き込み、みんなで見合う。	7月
英語	デジタル教科書を使って学習を進める。	
理科	ホウゼンカの写真を取り、写真を入れて簡単な生長記録を作る。	
体育	表現・とびばこ・鉄棒の学習で自分の姿を動画撮影して確認する。	

「ICT活用プロジェクト」の授業は、校内のみならず、松江市教育委員会とも連携して記録を残し、市内の小・中・義務教育学校へ発信・情報共有。



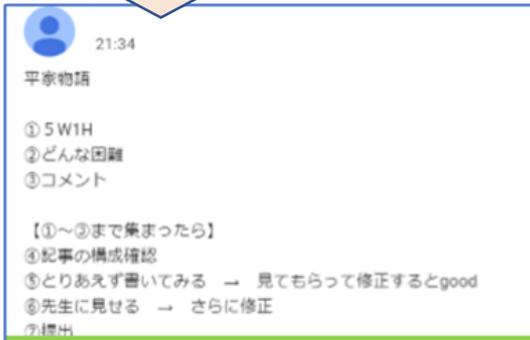
# リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

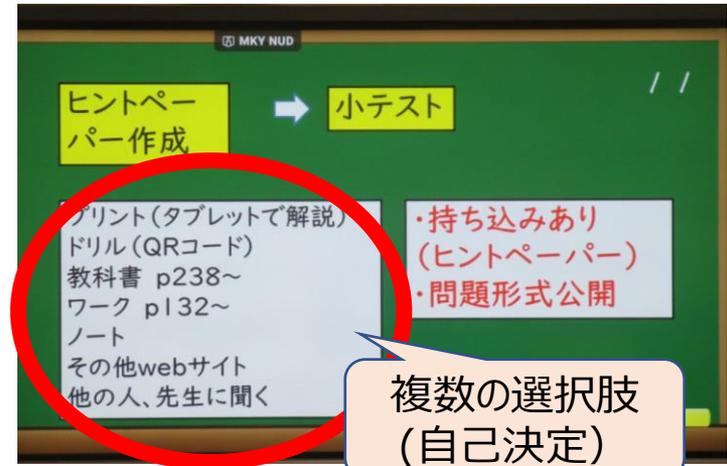
## 【取組内容①】 Google Workspaceの活用による複線型（自己決定型）授業の実践

自己の課題解決に必要な情報（インターネット、教師の話、他の生徒との対話、他の生徒の学習過程等）を、生徒がほしいタイミングで入手しながら進める学習展開。何からどのような情報入手するかを生徒に委ね(自己決定)、自分で選択した学習過程を振り返る（メタ認知）ことで、生徒自身が学習スキルを身につけていくことをねらったが授業実践。ICTを活用することで、生徒に多様な学びを提供できる。

資料等をクラスルームにアップ



スプレッドシートで進捗状況を確認し、他の人に聞くときの参考にする。



他者に聞く

アナログ



タブレット



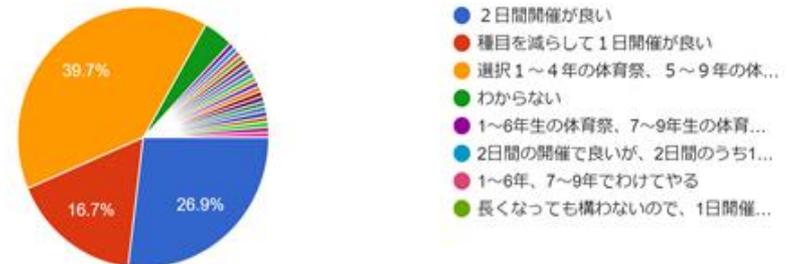
## 【取組内容④】 Googleクラスルームと指導者用タブレットを活用した情報伝達(日報・欠席連絡等)の効率化

児童生徒数約730名、教職員数約60名と大規模校であり、前期課程と後期課程では生活時程が異なることから、情報の集約や情報共有に課題があった。様々なGoogleアプリ（クラスルーム、フォーム、スプレッドシート）と指導者用タブレットを活用することで、情報伝達の効率化を図った。

## ①様々な場面でのGoogleフォームの活用

- ・欠席等連絡での活用：朝の電話対応が激減し、他の業務対応が可能となった。また、インフルエンザ等の欠席状況を朝の早い段階で把握することが可能となり、感染拡大防止対策を早目に講ずることが可能となった。
- ・下校手段の連絡での活用：インフルエンザ等の蔓延のため、急遽児童を下校させることになった際に、下校手段を保護者からフォームで回答してもらった。従来は、電話連絡等で対応していたため、大幅な業務改善につながった。
- ・学校行事に対するアンケートに活用：意見を瞬時に集約できることから、アンケートをとりやすくなり、学校行事を検討する際に参考にしたり、保護者の教育活動への参画意識を高めることに寄与した。

1 から 9 年生が合同で、2 日間の体育祭開催でしたが、「実施方法」はどうでしたか。  
156 件の回答



【取組内容④】 Googleクラスルームと指導者用タブレットを活用した情報伝達(日報・欠席連絡等)の効率化

②Googleスプレッドシートを活用した日報

R5 日報 & 日誌		月	日	曜日	日直			
<p>【本日の予定】</p> <p>中四国技術・家庭科研究大会準備 全校5時間・部活動なし</p> <p>○中期集会</p> <p>○原子力防災訓練(情報伝達訓練) 9:10頃</p> <p>○SC 8:30~12:30</p> <p>○技家研関係者来校 会場準備・確認 全体会終了後 16:30以降</p> 		<p>【連絡と確認】 8:10までに入力してください。</p> <p>発信者</p> <p>前期課程理科室の電子黒板を、放課後から明日の5時間目まで会議室で使用します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>16:10、職員集合をお願いします。環境整備の確認と、いくつか確認事項があります。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日中監研のため1日第二図書館棟の旧校長室で研修を受ける予定です。もし不都合などありましたら まで連絡ください。</p> <p>前期課程のバス待ちの場所は、今のところ変更はありません。</p> <p>ー 第2図書館に変更したいと思います</p> <p>前期課程も、短縮時程です。横割り掃除です。5時間目終了後、14:40下校です。布志名のバスは、14:49です。</p> <p>前期課程の担任の先生方の机の上に文化祭2日目の動きを置かせていただきました。いくつか確認事項も書いていますのでご確認ください。</p> <p>恐ふきグッズを職員室中央に置いてあります。お使いください。</p>		<p>【休み】</p> <p>・ (~9:10)</p> <p>・ (一日)</p>		<p>【下校時刻】</p> <p>・ 1~6年生: 14:40</p> <p>・ 7~9年生: 15:30</p>		
<p>【出張等】</p> <p>・ 中四国技術・家庭科研究大会(県民会館) 1日 校長 PM</p> <p>・ 小学校理科部会授業研究会15:00~16:50 (出雲郷小)</p> <p>・ 松江市教研学校事務局部会14:30~16:30 (東出雲公民館)</p> <p>・ 玉湯地区地域福祉活動計画策定委員会18:00~19:30(公民館)</p>		<p>【来校者】</p>						
校長印	教頭印	巡視の時刻 及び状況	1	時 分	2	時 分	記事	日直印
<p>10/16 (月) 10/17 (火) 10/18 (水) 10/19 (木) 10/20 (金) 10/21 (土) 22 (日)</p>								

- ・ 教務から伝える日報に加え、教職員からの伝達事項欄を設けた。
- ・ 共同編集できることから各自の端末から「いつでも」「どこからでも」入力することができるようになった。
- ・ この日報は、職員室の大型モニターに映し出すだけでなく、各自のタブレットからもアクセスすることができるので、教室からでも確認することができるようにしている。
- ・ また、プリントアウトし、学校日誌としても活用している。

- ・ 日付のタブを選択することで、先の連絡事項を書き込むことも可能である。

Googleスプレッドシートを活用した日報による情報共有が進んだことで、職員朝礼を週3回から週1回へと減らすことができた。

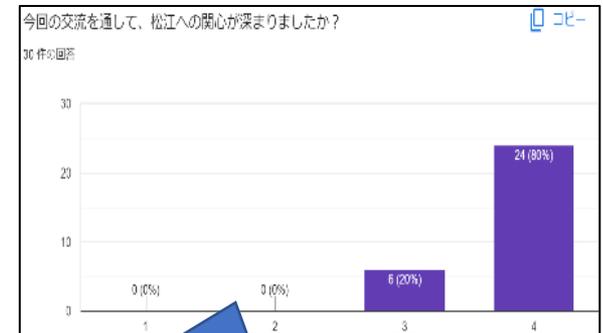
## リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容⑤】 他地域の学校や海外の方とのオンラインによる交流学习

7年生：総合的な学習の時間「松江の魅力について発表しよう」

総合的な学習の時間に調べた松江の魅力を、姉妹都市である愛知県の大岡中学校の生徒と、ニューオリンズ在住の方に紹介した。ICTを用いることで他地域（県外・海外）との交流が可能となり、より多方面から意見をもらうことで、多様なものの見方を身につけることができた。また、他地域の人へ、よりわかりやすく伝えることで、表現力を高めることもできた。



交流の後は、Googleフォームを使って、交流の感想や振り返りを伝え合った。  
同年代の他地域の中学生からの肯定的なフィードバックを受け、対話の良さを実感したり、学習への意欲を高めたりした。

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容⑤】 学校外関係者とのリアルタイム情報共有(Googleアカウントの発行とGoogleクラスルームへの招待)

校内でのICT活用を進めるために、様々な人の支援を得るとともに、Googleアカウントを発行し、効率よく打合せを行った。

### ①大学生のICTボランティア

- ・ 児童生徒のタブレット操作スキルには個人差が大きく、低学年ではとくに操作に慣れるまでにサポートが必要となる。
- ・ 授業中の個々のサポートは、授業者だけでは限界があり、地域の大学生6人にICTボランティアをお願いした。
- ・ 大学生はいずれも教職志望の4年生で、現場経験を積みたいという学生の要望とも一致して実現した。
- ・ 大学での授業を踏まえ、ローテーションで週3日午前中にボランティアに入ってもらった。
- ・ ICTをボランティアをしてもらうにあたり、教育委員会より指導講師を派遣してもらい、研修の機会をもった上でスタートした。
- ・ この大学生ボランティア6名との連携を容易にするため、Googleアカウントを発行しクラスルームに招待し、日程調整、サポートを依頼したい内容や、学生からの回答にスプレッドシートを使うことで、調整コストが激減し、効率的にサポートしてもらうことができた。



### ②大学の先生や教育委員会との情報共有

- ・ 大学の先生や教育委員会の方をクラスルームに招待し、リアルタイムに情報共有を行った。
- また、質問やアドバイス等の双方向でのやりとりが容易に行えるようになった。



松江市教育委員会学校教育課  
1月24日

先生  
市教委アカウント情報を送ります。  
ご確認いただき、資料の共有をお願いします。  
ユーザ名：  
市教委



大学の先生からのアドバイス

23:55 8月16日

行きたい場所を決めるのは、冒険に類々おますめの場所から決めるのでしょうか？それとも自分のこれまでの経験から決めるのでしょうか？

13:24 8月17日

具体的な相談（お気に入りの場所と約）の発表会を聖体み研修にすぐ行います。それをもとに行き先を決めたいと思っています。玉湯町を全部回るのには時間的に難しいため、〇〇方面というようにざっと行く場所をグループ分けします。発表会をしなから、担任は期間内一つ一つの場所の付属をします。（子どもたちに見えように）そこから、アカウントを取り（第三希望まで）人間関係等で考えながら行きたい場所を決める予定です。

授業者の返答